

# ホタテガイ採苗速報

**稚貝採取は2分では西湾、東湾ともに7月下旬からできる見込み  
ムラサキガイの付着が多い場合、稚貝採取を早めに始めましょう**

## 1 各地採苗器への付着状況

7月2～5日に行った第2回臨時付着稚貝調査の結果は、図1～3および表2のとおりです。

ホタテガイ稚貝の平均殻長は、間引きや袋替えを行わないものでは西湾で3.27mm、東湾で3.62mmでした。

1分5厘のフルイで残る稚貝の割合は、西湾で18.2%、東湾で12.4%、2分のフルイで残る割合は西湾で2.8%、東湾で0%でした。

## 2 今後の見込み

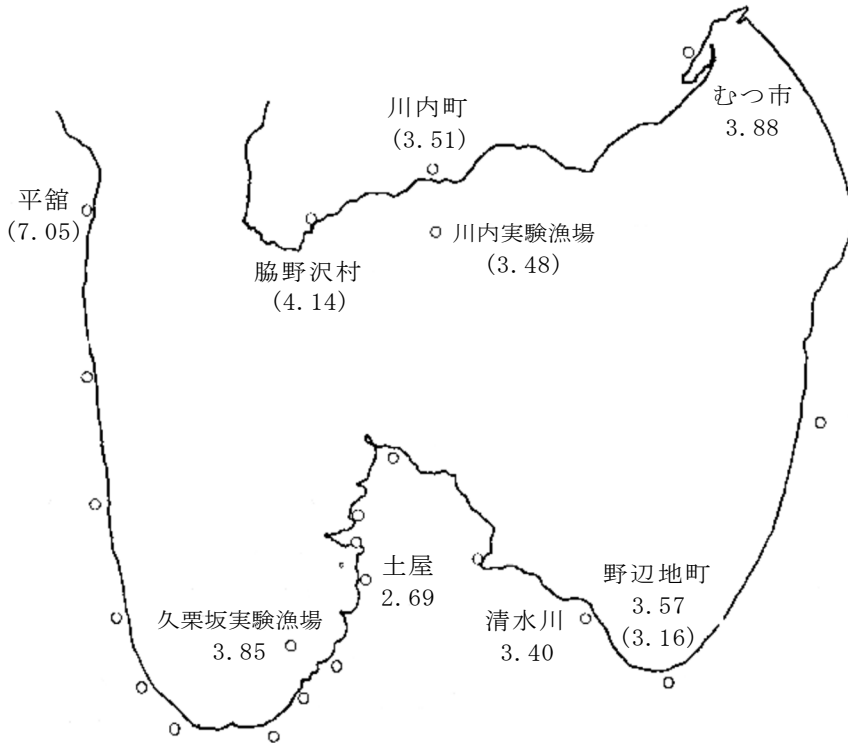
稚貝の大きさから判断して、全湾で1分5厘のネットに稚貝採取する場合、フルイに5割残るのは来週から、8割残るのは7月下旬から、2分の場合、5割残るのは7月下旬から、8割残るのは7月末の見込みです(表1)。

ただし、付着数や間引きや袋替えの有無、今後の水温の動向によって成長に差が生じるので、稚貝の成育状況を見ながら作業を進めてください。

ムラサキガイの付着が多い地区では、稚貝採取を早めに始め、早めに完了しましょう。

付着数の多い地区では、付着数の少ない地区へ稚貝の融通に協力してください。融通については採苗速報第8号を参照してください。

なお、稚貝採取時の注意事項は裏面にあります。



( )内は間引き、袋替え後の平均殻長  
図3 調査地点毎の平均殻長[単位: mm]

表1 全湾の稚貝採取予測時期

| 目合   | フルイに残る割合 |      |
|------|----------|------|
|      | 5割       | 8割   |
| 1.5分 | 来週       | 7月下旬 |
| 2分   | 7月下旬     | 7月末  |

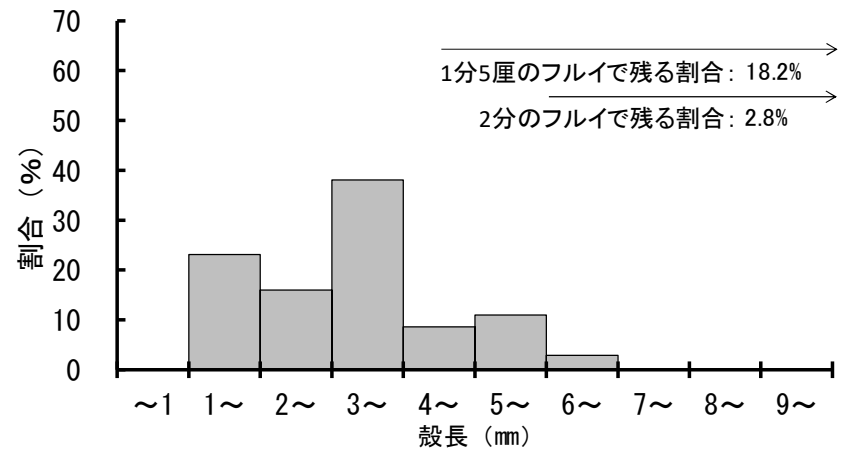


図1 間引き・袋替えなしのホタテガイの殻長組成 (西湾平均)

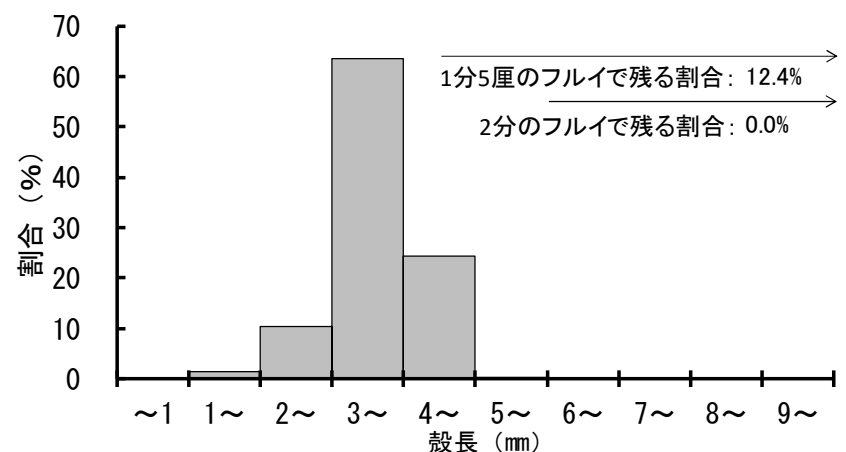


図2 間引き・袋替えなしのホタテガイの殻長組成 (東湾平均)



①



②

### 3 稚貝採取時の注意事項

(1) 小さな稚貝も活用しましょう。

○目合いの異なるフルイを二重にして、ムラサキガイを落としましょう。

○目合いの細かいフルイに残る殻長の小さな稚貝を再度採苗器に入れ、垂下しましょう。

(2) 稚貝を大切に扱きましょう。

○作業は早朝の涼しい時間帯に行い、タライや水槽の水温が上がらないように、シート等で直射日光を防ぎましょう。

○高水温時にはタライや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げるようにしましょう。水温上昇や酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になる危険性があるので、タライや水槽の水はかけ流しにするか頻繁に交換しましょう。

○稚貝は、海水温が26℃を超えるとへい死の危険性が高くなります。海水温を計ったり、海況自動観測ブイならびに水温自動観測ブイの水温（表面URL、QRコード）を参考にしながら26℃を超す日は稚貝採取をしないでください。

○稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょう。

○稚貝採取が遅くなるほどムラサキガイが成長し、ホタテガイ稚貝とくっつきやすくなり、作業効率が悪くなるので注意しましょう。

○採苗器内の稚貝は成長や水温上昇に伴い、袋の下に落ちて溜り、異常貝率やへい死率が高くなるので、稚貝採取は早めに完了しましょう。

(3) 適正保有数、適正収容数を守りましょう。

○稚貝採取では決められた保有数を守りましょう。

○パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょう。稚貝がへい死しない分散時の中層水温は23℃以下です。分散が遅れると稚貝が成長し、過密状態になることから異常貝が多くなります。分散が遅れる可能性があるパールネットには、稚貝を少なめ（50～100枚/段）に入れましょう。

(4) 採取後の管理に気をつけましょう。

○採取後の稚貝が足糸でネットに付着しているかどうか見ながら作業を進めましょう。

○水深が浅いほど水温は高く、潮も速いので、採取後は施設を中層以深に沈めましょう。また、立ちきり（土俵）やオモリをつけて、施設やネットを安定させましょう。

○採取後も一部の採苗器を残しておきましょう。